

ともに先へ、先へ。

民主党 参議院比例区第65総支部総支部長

参議院議員 えさきたかし



この「えさきたかしの「がんばるバイ」」は、僕の国会活動、おもしろい話やえっと思ったことなどを気ままに綴って、各県本部へ月1回程度のペースで配信します。どうぞご利用ください。

えさきたかしの「がんばるバイ」No.6

今月の「がんばるバイ」はちょっと変わって月例経済報告の話します。

景気の基調判断を先月と今月を比較すると、1月は「景気は、足踏み状態にあるが、一部に持ち直しに向けた動きが見られる」だったのが、「持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある」と若干の景気上向きの判断をしています。しかし、失業率に関しては「ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある」と先月と同じ表現でした。



六本木のジョブサポートセンターの就職相談風景

若干の景気上向き表現にしたのは、輸出と生産が持ち直しの動きがみられるからです。逆に個人消費については、「おおむね横ばい」とマイナス修正をしているため、全体では前述の表現となったものです。また先行き不安要因に北アフリカや中近東の政情不安を原因とする原油価格の動向があり、それによって景気が下振れするリスクがあります。

さて、2010年の第四四半期(10-12月期)の実質GDP成長率は前期比(第三四半期)で1.1%の減です。これは個人消費の▲1.7と輸出の▲0.4が主な原因です。個人消費が落ち込んだのは、タバコの値上げ、エコカー補助金の廃止による消費の落ち込みが主な物(一方で家電はエコポイント制の影響を受け、この期は駆け込み需要で大きく売上を伸ばしています)。輸出の落ち込みは、アジア向け輸出がマイナスとなったことが主要因ですが、ユーロ圏ではイギリスが記録的大雪の影響で同期の実質GDPが▲2.0と大幅に落ち込んだのも若干影響しているようです。こんなにGDPに影響するほど記録的な雪だったのですね。すごい。

アメリカ経済です。アメリカは失業率が下がつつありますが、依然として9.0%と高水準。しかし景気は回復してきているようです。その理由は、低金利政策によって資金が株に移動。株価が上昇し、個人消費増に結びついた景気回復ですね。楽観は決してできません。

ユーロ圏では景気の持ち直しに関して二極化が進行しています。良い方はドイツ、フランス、英国(大雪の影響はありましたが)、悪い方はギリシャ、ポルトガル、イタリア、スペイン。特に次はポルトガル、スペインの危機が囁かれているようです。

アジア経済です。2月に行ってきた中国で物価が結構高くなっていることに驚きましたが、やはり物価上昇は統計上も続いています。また不動産もバブルのような傾向にあります。

さてそんな中で日本の状況です。今日(3月1日)、六本木のジョブサポートセンターに視察に行ってきました。新成長戦略の奨励金制度も効いてきて、この時期ですが繁忙期並の会社数が求人に来ていました(東京ということもあります)。失業率は09年7月の5.6%から昨年12月の4.9%と減少傾向にあり、有効求人倍率は09年8月の0.42倍から同0.57倍と持ち直しつつあるのは事実のようです。しかし、企業規模別に見ると従業員500人以上の企業が昨年9月から大きく人を減らしています。一方で特別給与を事業所規模別にみると、大企業のみが対前年比プラス、それ以外はすべてマイナスという二極化です。

そんなこんなで、冒頭の景気判断となったわけです。こうやって見てきて特に注意すべき点は、輸出では中国、アメリカの景気がどうなるか。特に中国では中東の民主化の動きが飛び火すれば政情不安となり、即日本経済に影響します。アメリカの景気回復も決して底固いものではありません。その他では、資源価格の上昇です。原油だけでなく、銅や鉄、小麦などが懸念されています。さあ、そこで「新成長戦略」の確実な実施が必要ですが、今日未名に予算案は衆議院を何とか通過しましたが、関連法案の成立目処はつきません。綱渡りの政権運営が続きます。何とか頑張らなければなりません。